



先月の山行

☆ 9月23日(日) 立山、称名滝

10月の予定

☆ 14日(日) 能郷白山

☆ 21日(日) 県連主催赤兎山

CL 宮本重信

☆ 28日(日) 冠山

11月の予定

★ 8日(木) 例会

☆ 11日(日) 大師山～

CL

☆ 25日(日) 己高山「こだかみ」滋賀県

CL

山行申込み方法

・例会時に未定であったり、山行申込済で都合によりいけなくなった場合は、前々日夜までに山行リーダーへ直接連絡してください

山の予定は天候に左右されます。より hot な情報は

<https://asihiking2.jimdo.com/山行計画-1>

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

[山行報告]

立山八郎坂、弥陀ヶ原、称名滝

日時 2018年9月23日



8月に続き、9月の週末も台風や悪天候続きの中、23日は久々の山日和で心躍る。4:30 カネキ出発。6:40 称名道路ゲート到着。

八郎坂は、歩くアルペンルート。歩いて登るのははじめてだ。飛龍橋から弘法まで標高差 600m を一気に登る。急坂に加え、私の苦手な石ごろごろ。その上石が濡れて苔むしてすべる。道幅が非常に狭いところもありかなりの難路だ。高度を上げるにつれ称名滝がさまざまな表情を見せてくれる。ミヤマダイモンジ草、白ひげ草、アキギリの可憐に姿に励まされ、称名滝を見下ろす高さまでやってきた。登り口から約1時間半で八郎坂脱出、ほっと一息ついた。

滝の音が遠くなったと思ったらいきなりバスの音でびっくりする!!弘法だ。ここでバス道を横断し追分まで、主に木道を歩く。木道の入り口でちょっと道に迷ったが、宮本会長の的確な判断でバス道を引き返す。緩い勾配の斜めの木道、ところどころ朽ちた木道とまだまだ気は抜けない。オオカメノキやナナカマトの赤い実、緑の葉に混じりところどころに黄色や赤に色づき始めた木々の間から、青空が広がる。大日連峰、近くに佐々成政の埋蔵金伝説のある鋤崎山、遠くに薬師岳を眺めながらの楽しいハイキングが続く。

11:00 弥陀ヶ原の立山荘前のテーブルで雲海を見ながら皆で昼食をとる。汗を少しかいたので、じっとしていると少し肌寒い。さすが 2000m の高原の涼しさだ。昼食後立山荘裏手から立山カルデラ展望台に行く。火山活動と侵食活動で削られたカルデラ全景が見渡せ、眼下に刈込池(同じ名前なんだね)や立山温泉(今は主に工事の人工)が見える。見上げれば、一の越、獅子岳、ザラ峠、鷲岳、鳶岳、薬師岳の大パノラマが広がり「登りたいね」と縦走の話で盛り上がる。



弥陀ヶ原外回り遊歩道コースを歩く。弥陀ヶ原高原は緩やかな溶岩台地の広大な湿地が広がっている。がきの田という地塘がたくさん点在する中をよく整備された木道が続く。ワレモコウやイワショウブの赤い実がすこし秋の気配。その向こうには大日連峰。紅葉にはまだ少し早い、少し色づき始めた山々に白いガスがのぼりはじめ、何ともいえないすばらしい色彩のマジックだ。美しい景色の癒しの高原トレッキングの楽しい時間はあっという間に過ぎた。

まっていたのは、恐怖の八郎坂くんだり。経験不足と体力不足のうえ疲れて踏ん張りのきかなくなった私は、急坂にびびりまくり途中石の上で何度かすべって転ぶ。途中何度も振り返って待っててくれ、アドバイスをいただき、後ろからゆっくりついてきてくれた会の皆さんには感謝!感謝! おかげで遅れながらもなんとか無事下山できた。ありがとうございました。

下山後、観光客にまじり称名滝に向かう。立山連峰の雪解け水が集まる落差 350m 4 段の滝は、日本一の落差というだけありその水量と大迫力の爆音のすさまじい自然の力に圧倒される。ミストシャワーなんていうやさしいものではなく、雨のような水しぶきと寒さに早々に退散し、吉峰温泉経由で帰路につく。お天気に恵まれ、急登をクリアし、木道歩きの高原トレッキングを楽しみ湿地やカルデラ、滝や溪谷と大自然からパワーをもらい、会の皆さんの優しさにふれ楽しい一日となりました。紅葉の時にまた来たいな、今度は弘法からのくんだりバス

でね(笑)



「編集後記」

毎月の例会で個人山行情報なども入手出来ます。大変お忙しいとは思いますが積極的な例会参加を宜しくお願い致します。

日本勤労者山岳連盟発行「登山時報」では、労山会員の皆さんからの投稿写真を募集しています。

登山時報投稿写真係 <mailto:tozanjiho@jwaf.jp>